第 2018-40 号

恵みと真理のニュース

2018 年 10 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

主に自らをゆだねよ／主はあなたの心の願いをかなえてくださる。

“主はいつも私の心におられる。主がおられるので喜び溢れる。主は私を慰めてくださる。主を離れてどう生きられるか”
この讃美歌は私がとても好きで一日に何度も歌う賛美歌473番で繰り返しの歌詞です。この讃美歌のように主を離れて生きることが出来ません。
私は20代に職場生活をするとき、会社の先輩から伝道されイエスキリストを救い主として信じ受け入れ神様を仰ぎ仕える信仰生活をするようになりました。その前までは私は偶像崇拝をする家庭で10人兄弟の中で9番目の子で生まれ、家族が熱心に偶像崇拝をすることを見ながら育ちました。特に、母は毎月、１日と15日は必ず祭祀をして偶像を拝んで子供たちの福を拝みました。
そんな家庭環境で成長しましたが、熱心に礼拝を捧げて休まずに説教を聞いて聖書を習いながらイエスキリストの神様だけが人々から敬拝を受けて仕えられる雄一な対象であることを悟りました。神様は生きておられて、私たちの子供が期待と願いをもって切なく祈ると神様は一番良い時に答えてくださるのを確実に信じるようになりました。そんな尊い信仰を与えてくださった神様に感謝しながら教会学校の教師と聖歌隊員で奉仕しています。
神様を信じ愛して仕える生活と礼拝をする生活がどれほど大事なのか知ったので結婚適齢期になり真実な信仰を持っている配偶者に出であうように祈りました 。祈りに答えてくださった神様の恵みで熱心に神様を信じる配偶者に出会って結婚しました。旦那と共に熱心に教会を仕える中で教会で紛争が起きて党にわかれてしまいました。そうするうちに、神様の導きを願い祈って恵と真理教会に行くようになりました 。
旦那が健康診断を受けましたが、大腸でいくつかのポリープが発見されました。生体組織検査の結果“家族性ポリープ”で子供にも遺伝されると言われました。心配しているとき高校1年生で在学していた娘が体力検査で受血を受けるくらいの貧血数値が低かったので集中検査を受けてなさいという通報を受けました。
大学病院で検査を受けた娘の大腸の全体でポリープがぶどうのようにいっぱいあると言われました。内視鏡が大腸に入ることが出来ないほどその状態は深刻でした。検査途中に医師から今の状態を聞くときにもう空が崩れる衝撃を受けました。大きく落胆して泣きながらどのように治療する方法がないですかと医者に聞きました。ポリープの大きさが４㎝より大きいと癌になる確率が高いが、とりあえず組織検査をしてみないとわからないと言われました。 大きいポリープが破れて血便をするようになってそれによって受血をしなければならないほどの貧血になったそうです。大腸の全体を切り取って胃腸と小腸をつなげる手術と治療をしようとしました。
17歳の娘が大腸の全体を切ることはできませんでした。私はほかの治療の方法はないですかと医師の手を掴んで哀願しました。医師はこんな私の姿を見てかわいそうに思われ最善を尽くしてポリープを切り離して組織検査を見てからもう一度判断するとしました。私の力ではできる方法がなく絶望な状況で私は医師からポリープを切り離してくださいと頼みました。娘に今の状況を言えませんでした 。私は旦那と共に教会に行って泣きながら神様に切なく祈りました。
一日10時間づつ　３日間、内視鏡でポリープを切り離しました。そして4㎝より大きいポリープは一つ一つ組織検査をしました。その過程を見ると私の体から血が渇いて唇も渇きました。教会に知らせて祈りを頼んで神様を仰ぎ癒しの恵みを求めました。
大きいポリープをすべて検査した結果、幸いにガン細胞になったものはないと医師から聞きました 。真で幸いで神様に感謝しました。私の夫婦は娘の大腸の姿が健康になるのを想像しながら、“私たちが出来ない事も神様はすべてできるのを信じます。娘を治療してくださるのを信じ感謝ささげます。”信仰の告白をしながら神様に涙の祈りを捧げました。礼拝時間ことに神癒の祈り時間に大腸の位置に手を置いて当会長の牧師の祝福祈りに“アーメン”“アーメン”と答えて切に祈りました。
１年に２，３回に内視鏡を通してポリープを切り離すから娘が肉親的な苦痛を受けました。私と家族も精神的な苦痛も続きました。娘の病気と特異体質によって私は娘にもっと愛をあたえて深い愛を感じもっと祈るようになりました。そして祈るする中で娘がこれから神様に大きく用いられて神様に栄光ささげると確信になりました。一年、二年が過ぎてポリープの数が減り１１年ぶりに娘の大腸が健康なったと判定を受けました。健康な大腸の写真と娘の写真を比較しながら娘が健康になるだろうと信じて祈った通り、神様がきれいに治し健康な体を癒してくださいました。“ハレルヤ！父なる神様、感謝します。”
“主に自らをゆだねよ／主はあなたの心の願いをかなえてくださる。”（詩編３７：４）と御言葉を考えながら、今日、神様が喜ばれることが何か考えながら日々を始めるのが日常になりました。苦難と逆境を乗り越えて 災いを転じて福となすようにしてくださり、絶望を希望で変えて下さり、神様を賛美して仕えながら日々を生きるのが言葉で表現できないほど楽しくて幸せを感じます。
事業場で 恵みと真理ニュースで３０分間の礼拝を捧げるのが１０年になりました。仕える教会は違いますが、当会長の説教を通して信仰が成長して熱心に祈る職員達の姿を見ながらもっと神様の恵みに感謝ささげるようになります。私が神様にささげる十分の一の献金が増えるより、職員達が正しくて篤実な信仰で神様にもっと多い十分の一献金を捧げるように心から祈っています。すべての栄光を神様にささげます。
”愛する者よ。あなたの魂が恵まれているようにあなたが全ての面で恵まれ、健康であるようにと祈っています。”

［信仰コラム］　自分を捨て、自分の十字架を負いなさい

”...だれでもわたしについてきたいと 思うなら，自分を捨て、自分の十字架を負うて，わたしに従ってきなさい。”（マタイによる福音書16:21～24）

イエス様に従おうとする人はイエス様に対して正しい知識を持つことが優先されるべきです。そうして聖書に啓示された通りのイエス様を信じて仕えるべきです。イスカリオテのユダとペテロを対比して調べてみます。
まず、イスカリオテのユダに関して調べてみましょう。
イエス様が 12 人の弟子に”わたしがあなたがた十二人を選んだのではありませんか、しかしそのうちのひとりは悪魔です。”と言われました。マリアがナルド香油が入った石膏のつぼを持ってきて破り、イエス様の足に注いで自分の髪の毛でイエス様の足を拭うとイスカリオテのユダがマリアに向いて憤慨しながら”なんのために 香油をこんなにむだにするのか。この香油を三百デナリ以上にでも賣って，貧しい人たちに施すことができたのに”と責めました。ヨハネによる福音書には”彼がこう言ったのは，貧しい人たちに對する思いやりがあったからではなく、自分が盗人であり，財布を預かっていて，その中身をごまかしていたからであった”と説明されています。過ぎ越しの一日前の夜にイエス様が 12 人の弟子と共にエルサレムのある家の屋根裏に集まって夕食を食べられながら”あなたがたのうちのひとりが，わたしを裏切ろうとしている”と言われました。ヨハネが”主よ，だれのことですか”とするとイエス様が”わたしが 一きれの 食物をひたして與える者が，それである”と言われ、一切れの食物をひたしてイスカリオテのユダに与えられながら”しようとしていることを，今すぐするがよい”と言われました。イスカリオテのユダは自分の考えを見抜かれているのをイエス様を恐れて自分の計画を捨てるべきであったが、心を決めた通りに進行していきました。
次は、ペテロに関して調べてみましょう。
イエス様が弟子達に御自分がエルサレムに行かれると殺されて３日目に蘇ると予告なさるとペテロがイエス様に”主よ，とんでもないことです。そんなことがあるはずはございません”と引き留めました。イエス様は振り向いて”サタンよ，引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは 神のことを思わないで，人のことを思っている”と責められました。そして弟子達に”だれでもわたしについてきたいと 思うなら，自分を捨て，自分の十字架を負うて，わたしに従ってきなさい”と言われました。イエス様が逮捕されて引っ張られると弟子達は全て逃げてしまいました。ペテロはイエス様が尋問受けられる大祭司長の家の庭まで付いていったが、イエス様が尋問を受ける現場で自分はイエス様を知らないと 3 回も否認しました。その時、鶏が 2 番目泣いてペテロは”にわとりが二度鳴く前に，三度わたしを知らないと言うであろう”と言われたイエス様の御言葉を思い出して外に出てひどく痛哭しました。
その後、ペテロが他の弟子達と共に夜の海に出て漁をしていた明け方に復活なさったイエス様がペテロに”ヨハネの子シモンよ，あなたはこの人たちが愛する以上に，わたしを愛するか”と尋ねました。”主よ，そうです。わたしがあなたを愛することは，あなたがご存じです”とペテロが答えると”わたしの小羊を養いなさい”と言われました。このような対話が 3 回も繰り返された後にイエス様がペテロに”よくよくあなたに言っておく。あなたが若かった時には，自分で帶をしめて，思いのままに歩きまわっていた。しかし年をとってからは，自分の手をのばすことになろう。そして，ほかの人があなたに帶を結びつけ，行きたくない所へ連れて行くであろう”と言われました。使徒ヨハネはこの場面で説明を加え”これは，ペテロがどんな死に方で，神の榮光をあらわすかを示すために，お話しになったのである”としました。
過去にペテロは自分が願うメジヤに対する観念を持ってイエス様に従いました。しかし、今は聖書に啓示されており、またイエス様が直接言われた通りのメジヤに対する認識、イエス様に対する認識を持つようになりました。また、主の思い通りになるのが最上で最善であるのを体得したので順々に主の御言葉を受け入れるようになりました。後日、彼は実際に逮捕されて願わない所に引っ張られて殉教されることで神様に光栄を捧げました。ペテロとは異なってイスカリオテのユダはどん欲と自分の思想から出た信念を最後まで固守しました。イエス様の御言葉と思いを逆らう自分の考えと主張を釘つけるのを拒みました。ついにイエス様を大祭司長に渡して、首をくくって死にました。結局、滅びの道に行ってしまいました。
皆さんは”だれでもわたしについてきたいと 思うなら，自分を捨て、自分の十字架を負うて，わたしに従ってきなさい。”と言われたイエス様の御言葉が持った誠で深い思いを肝に命じてこの御言葉通りに生きていくように祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

過去、未来、現在の管理

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

老いと死がない天国では、時間の流れが、この世界とは違うものです。しかし、この世に生きている私たちは、時間の流れのゆえに、過去、現在、未来を意識して生活します。誰でも常に現在に住んでいるが、過去と未来の関係ないで生きることができません。過去には、現在と将来に影響を及ぼし、現在は過去と未来に影響を与えます。したがって、現在の住んでいる私たちは、過去と未来についてどのような姿勢をとることが賢明であるかを聖書を通して学ばなければなりません。

第一に、過去の過去に対して持つべき姿勢を見てみましょう。

1.私たちは、過去のものを回顧して思い出す必要がありますが、過去に執着しではいけません。

エジプトから出発して、カナンに向かうイスラエルの子らの中の多数がカナンに入らないでした。そうなった重要な理由がありますが、過去に執着したのが、その中の一つです。民数記 11 章を見れば、彼らは神を恨んで不平て泣きながら言った、 **「また 彼らのうちにいた多くの 寄り 集まりびとは 欲心を 起し，イスラエル の 人々もまた 再び 泣いて 言った，「ああ， 肉が 食べたい． われわれは 思い起すが， エジプトでは， ただで， 魚を 食べた． きゅうりも， すいかも，にらも， たまねぎも， そして， にんにくも しかし，いま， われわれの 精根は 盡きた． われわれの 目の 前には， この マナ のほか 何もない 」（民 11：4-6）、「あなたはまた 民に 言いなさい， 『あなたがたは 身を 清めて，あすを 待ちなさい． あなたがたは 肉を 食べることができるであろう． あなたがたが泣いて 主の 耳に， わたしたちは 肉が 食べたい． エジプト にいた 時は 良かったと 言ったからである． それゆえ， 主はあなたがたに 肉を 与えて 食べさせられるであろう」（民 11:18）**しました

イスラエルの民は、かつてエジプトにいるときに彼らの生活について回想しながら歪曲された言葉をしました。なぜならエジプトで、彼らはエジプト人の虐待を受け鞭を打たれながら重労働をした見返りとして食糧を得て無料で食べ物を食べることができる立場ではありませんでした。彼らエジプトにいる時の楽しみいたが言ったことも誇張されたものであり、これは、現在享受している霊的な祝福と恵みを軽く思う理由です。私たちは、現在の信仰を毀損する過去の歴史を執着しないようにすることです。

2.過去に神が与えてくださった恵みを回想して感謝して、今日の困難を克服する力を得ることは望ましいことです。

ダビデは過去神が与えされた恵みを数えて回想するのに卓越しました。 **「わがたましいよ，主をほめよ． わがうちなるすべてのものよ，その 聖なるみ名をほめよ わがたましいよ，主をほめよ． そのすべてのめぐみを 心にとめよ． 主はあなたのすべての 不義をゆるし，あなたのすべての 病をいやし， あなたのいのちを 墓からあがないいだし， いつくしみと， あわれみとをあなたにこうむらせ あなたの 生きながらえるかぎり， 良き 物をもってあなたを 飽き 足らせられる． こうしてあなたは 若返って， わしのように 新たになる」（詩篇 103：1～5）**しました。ダビデは苦境に処する過去神が共におら助けくださったことを回想するので、落胆を克服しました。詩篇 42 篇 6 節で**「わが 魂はわたしのうちにうなだれる． それで， わたしは ヨルダン の 地から，また ヘルモン から， ミザル の 山からあなたを 思い 起す」**としました。私たちは、過去のことを思い出したり回想することが貴重な教訓を振り返るのであれば有益なことです。励ましと慰めを持たせて、勇気と希望を与えるものであれば望ましいことです

第二に、来るべき未来について持つべき姿勢を見てみましょう。

1.私たちは、未来志向する必要があります。

エジプトを離れたイスラエルの民が 2 年ぶりについにカナンの地に近いきました。モーセは十二人の斥候をカナンの地にかけて送って、その地を検出し、その結果を報告するようにしました。ヨシュアとカレブを除い 10 人は、彼らは偵察した土地を悪評し非常に否定的報告をしました。これを聞いて、民が落胆してモーセと神を恨んで一晩中に泣き、他の指導者を立てて、エジプトに帰ろうと叫びました。十人の斥候は、神の約束に対する信仰の欠乏が原因で否定的な判断をしました。民の考えを過去志向で作りました

一方、ヨシュアとカレブは神の約束を信じて、状況を積極的に未来志向的に判断しました。カレブはモーセの前で民を落ち着かせながら言った、**「そのとき，カレブ は モ ― セ の 前で， 民をしずめて 言った， 「わたしたちはすぐにのぼって， 攻め 取りましょう． わたしたちは 必ず 勝つことができます」（民 13:30）、「イスラエル の 人iの 全會衆に言った， 「わたしたちが 行き 巡って 探った 地は 非常に 良い 地です．もし， 主が良しとされるならば， わたしたちをその 地に 導いて 行って， それをわたしたちにくださるでしょう． それは 乳と 蜜の 流れている 地です． ただ， 主にそむいてはなりません． またその 地の 民を 恐れてはなりません． 彼らはわたしたちの 食い 物にすぎません． 彼らを 守る 者は 取り 除かれます．主がわたしたちと 共におられますから， 彼らを 恐れてはなりません」（民 14：7～9）**しました。民はむしろヨシュアとカレブを石打ち殺そうとしました。怒りの神が 10 斥候を殺しました。そして民はその日から 38 年間を荒野で放浪になりました。その結果、エジプトから出てくるとき、20 歳以上の人々は、ヨシュアとカレブ以外カナンの地に入ることができずに死亡しました

2.私たちは、過去の過ちと失敗による罪責と失敗意識を処理し、明日のビジョンを持たなければなりません。

イエスは最後の晩餐の後、弟子たちを連れてオリブ山に向かって行かれました。イエスは弟子たちに言われた、「今夜あなたのすべてが私を裏切るだろう。と記録されているが、私は羊飼いを打つのに、その後群れが散るだろう」したからである。としました。ペテロが答えるのを**「すべてが主を捨てるでも、私はいつでも捨てません」としました。イエスがペテロに言われた、「私は本当にあなたに言うのに、今夜鶏が鳴く前に、あなたはわたしを三度否定するものである。」**としました。

ペテロがこれを強く否定して、**「私は主と一緒に死ぬとしても、決して主を否定しません」**と言うと、他の弟子たちもそう言いました。しかし、イエスは逮捕され、連行され行かれるのを見た弟子たちは皆逃げました。ペテロは、イエスが引かれて行かれ大祭司の庭まで行きました。ところがそこでペテロがイエスの弟子であることを知っている人がペテロの正体を暴露したので、ペテロが、自分はイエスを知らないと否定しました。彼が 3 番目の否定たとき、果たして鶏の泣き声がしました

イエスは十字架につけられ死なれ、墓に葬らできていたが、三日目に復活ました。そして弟子たちに現れて、自分の復活を知らせました。ある日早朝、イエスが海辺に来て、海で魚を取る弟子を召されました。弟子たちがイエスおられる場所に行ってみると、炭火が焚かれていた、その上に魚とパンが置かれていました。食事が終わると、イエスはペテロに、「あなたはわたしを愛しているか」という質問を引き継ぎで三回しました。ペテロは振るえる声でイエスへの愛を告白しました。イエスは、そのたびに「わたしの羊を飼いなさい。」と言われました

イエスの質問は、実際にペテロに限ったことではなく、他の弟子たちに向かってしたものでもあります。ペテロがイエスへの愛を告白するとき、他の弟子たちも、心にそのような告白したのです。イエスは彼らの心から敗者、裏切り者という罪悪感を除去してくださる弟子たちのために朝食を準備したし、イエスへの愛を告白したのです。そして、イエスは彼らにイエスの羊を飼うすべての人に福音を伝えることを任せました。弟子たちが裏切りした過去の歴史に執着せず、希望を持たせたし、ビジョンを抱かせられ、未来志向的になるようにしました。私たちは、過去の失敗に心が押されていないようにする必要があります。敗北して失敗した経験の中で悔い改めることは悔い改め、教訓になることは教訓が、心に刻んで、苦い経験は断固切り落とすべきです　そして未来に向けた希望的な、ビジョンで心を満たさなければしまなりません。

第三に、今日の現在に対して持つべき姿勢を見てみましょう。

過ぎ去った過去は元に戻すことができません。近づく未来は短縮することができません。過去は過ぎ去った現在でした。未来は現在に変わる場合のみが使用可能になります。私たちは、常に現在を生きているが現在をよく生きるのが良い過去を積ることです。現在の最善を尽くのが、良い未来を眺めることができます。今よく生きる道、神の善で喜びがと完全の意味を分別し、その志にふさわしく生きることです。その志では、聖書に多様に明らかにされています。

テサロニケ 5 章では、非常に簡潔なコマンドになった神の意志が記録されています。**「いつも喜んでいなさい絶えず 祈りなさいすべての事について， 感謝しなさい． これが， キリストイエス にあって， 神があなたがたに 求めておられることである御靈を 消してはいけない．預言を 輕んじてはならない． すべてのものを 識別して， 良いものを 守り， あらゆる 種類の 惡から 遠ざかりなさい」（テサロニケ人への第一の手紙 5:16～22）**しました。 **「だから， 飲むにも 食べるにも， また 何事をするにも， すべて 神の 榮光のためにすべきである」（コリント人への第一の手紙 10:31）**として、**「そういうわけだから，肉體を 宿としているにしても，それから 離れているにしても，ただ 主に 喜ばれる 者となるのが， 心からの 願いである」（コリント人への第二の手紙 5：9）**努めて生きるべきです。患難や悲しいことに会うときは、**「なぜなら， このしばらくの 輕い 患難は 極めて，永遠の 重い 榮光を， あふれるばかりにわたしたちに 得させるからである． わたしたちは， 見えるものにではなく， 見えないものに 目を 注ぐ． 見えるものは 一時的であり，見えないものは 永遠につづくのである．」（コリント人への第二の手紙 4：17,18）**この言葉を心に置いて克服します。聖徒の皆さんは、今日見た過去と未来と現在の聖書の教えをそのまま行い生きて行かれるのを願います。